

福祉にいがた

Fukushi Niigata

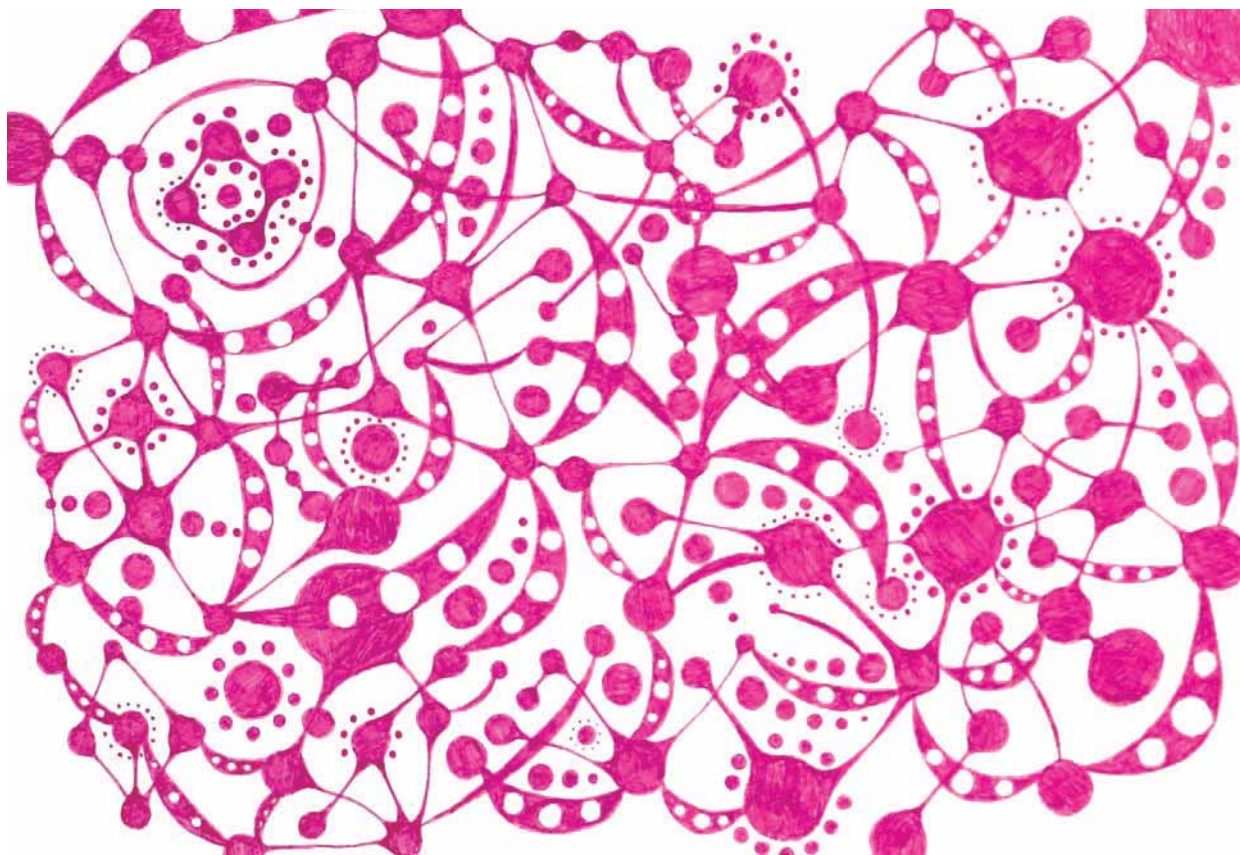
CONTENTS

巻頭特集

「こころ紡ぐ」—知的障害の若者ら学ぶ
新潟のカレッジ5年目へ（2～4面）

- 新年度県予算、福祉12団体が知事に要望
- 県社会福祉協議会の新年度賛助会員募集
- 「こわれ者の祭典」が20周年記念イベント

2月号
2023
第846号



絵
「情」

作家・佐藤葉月（妙高市）

<作者一言> 私の情はねっとりしています。良くも悪くもずっと忘れない



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp/>

KINGOカレッジ 5年目へ



新聞をテーマにした「座学」では、学生がそれぞれ興味ある記事の写真を切り抜いて作った、自分だけの新聞を発表した=1月10日

新潟 民間が運営

2年制、定員学年10人 福祉報酬で経費賄う

知的障害のある子どもにも大学のような場で学ばせたい。保護者の願いが結実して新潟市中央区に開設され、4月で5年目を迎える福祉事業型専攻科「KINGOカレッジ」。特別支援学校高等部を卒業した知的障害の若者を受け入れる2年制カレッジは来月、3回目の卒業生を送り出し、4月には新入の5期生を迎える。年度末で慌ただしいカレッジを訪問。知的障害のある若者たちの学び舎が開設された経緯取材し、久保田健学園長にインタビューした。

休み時間の教室で、はしゃいだ若い声が弾ける。廊下で雑談する姿も。新潟国際情報大学新潟中央キャンパス5階に居る「KINGOカレッジ」の3室を借り1年生と2年生の2教室、事務・職員室に充てる。

運営するのは太陽光発電を主力事業とするノザワコーポレーション（新潟市



中央区)で、福祉事業のカレッジ運営は同社の事業の一つだ。KINGOカレッジは障害者総合支援法に基づいた自立訓練（生活訓練）の提供と位置付けられる。「福祉事業型専攻科」はカレッジが、特別支援学校高等部卒業生のための学びの場であり、福祉事業であることを示す。カレッジは2年制、定員は各学年10人。知的障害のある若者（特別支援学校高等部卒業生を優先）に「英語」「スポーツ」「音楽」「社会」「ICT（パソコン）」

「テーマ研究」など幅広い授業を用意する。2年間、学んだ卒業生はこれまでに就労移行支援や就労継続支援B型の事業所で働くほか、一般就労もしている。

福祉制度に基づくため、入学金や授業料に当たるものは徴収しない。定員通りの学生が通学し続けられ、事業収入までは見込めないものの、行政から受け取る障害福祉サービスの報酬により人件費や家賃などの経費は賄えるという。

（3ページへ続く）

時間/曜日	月	火	水	木	金	土
9:00~9:40	登校					
9:40~10:10	朝ミーティング(学年)					
10:20~12:00	午前の授業					サークル自主計画(テーマ研究)
12:00~13:00	昼食(昼休み)					
13:00~14:40	午後の授業					下校
15:00~15:30	振り返りミーティング					
放課後	サークル活動等					

※年間の計画により、土曜日は休みの週もあります。

(2ページから続く)

「カレッジで学ぶ学生たちはみんな生き生きとしています。そんな学生を見ると、カレッジをつくって良かったと思います」と、ノザワコーポレーションでカ

学生らみんな生き生き

レッジ事業担当の取締役の齋藤麻衣子さん。

齋藤さんがカレッジのよな学びの場を思い描いたのは十数年前。現在は20代前半となった次男が小学校低学年のころだった。

ダウン症候群で知的障害のある次男に「特別支援学校高等部の後も、もう少し勉強させたい、学びの場があればと、漠然と考えていた」と振り返る。

そのような施設は県内に

は見当たらなかった。歳月が過ぎ、次男は中学生になっていった。そのころ、知人に言われた。



音楽の授業で楽曲の練習を重ねて臨んだ音楽発表会=2022年12月25日



福笑い作りに挑戦した「アート」の授業。この後、みんな楽しんだ=1月10日



運営会社担当役員 齋藤麻衣子さん

【福祉事業型専攻科】「KINGGOカレッジ」障害者総合支援法に基づく「学びの場」で、法律で定められた支援のうち「自立訓練(生活訓練)」の適用を受けた事業。
【定員】学年10人、2学年で計20人。期間は2年間。
【利用対象】知的障害のある青年期の若者で身辺自立

できる人。特別支援学校高等部新卒者を優先。
【学費】入学金や学費に相当するものは原則不要。実習材料費や旅行費用などは徴収する。
【カリキュラム】月一金曜日10分休憩をはさんで午前・午後ともに90分間授業。学ぶのは「英語」「社会」「ICT(パソコン)」「音楽」

「アート」「スポーツ」「テーマ研究」など。
放課後には読書や卓球、ダンスなどのサークル活動も。
【住所】〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1169 新潟国際情報大学新潟中央キャンパス5階
【電話】025(201)6353 見学や入学相談などは随時、受け付け中。

「なければ自分でつくったらいじやない」
2015年6月、実現へ動き出した。

「高等部卒業後『働く』しか選択肢がないのは疑問で、もっと学びたいの思いに応えたい」

県や市の知り合いの協力を得て勉強会をスタート。

ノザワの社員2人が、お手下本となるような「学びの場」が神戸にあることを見つけ、16年から「エコールK

OBE」を視察し始めた。同じ年、学校の長期休みを利用して知的障害のある若者を対象に「チャレンジ講座」を開き、機運醸成を図った。17、18年にはシンポジウム開催を重ねた。

「つくって良かった」

開設に尽力の齋藤取締役

「KINGGOカレッジ」名称の由来
カレッジを運営する株式会社ノザワコーポレーション(新潟市中央区)は太陽光発電などが主な事業。
カレッジを担当する齋藤麻衣子取締役は同社の関連会社創業者の長女。福祉事業は亡父の遺志でもあったため、学校名は父の名にちなんだ。「KINGGO」は「K(高校)を卒業してO(大人)になるまでのING(進行形)」とも読めるという。

しかし、そうした「学びの場」の理解を得るのは簡単ではなかった。

知的障害のある生徒は高等部卒業後、福祉事業所で働くことが多く、高等部では軽作業訓練が重視されがちとなる。

「だから、学びの時間は『回り道だ』と言われたこともある」。齋藤さんは悔しそうちに振り返る。

(4ページへ続く)

KINGOカレッジ5年目へ

(3ページから続く)

入学説明会を経て19年4月、新潟市中央区に福祉事業型専攻科「KINGOカレッジ」が開校した。第一期生として、市内を中心に13人が入学。齋藤さんの次男も加わった。

3月に3度目の卒業生 歩み着実に歴史刻む

同様の学びの場は全国に約50カ所あるが、新潟県内ではまだ珍しく、しかも、学校型はKINGOカレッジだけという。

20、22年には7、10人が入学。20年3月から卒業生を送り出し、3回目の今年は10人が巣立つ。

ある日の午後、授業を終えた2年生の女子学生は

「楽しい2年間だった。仲間もできたので卒業は寂しい」と話した。また、男子学生は「昨年の関西への卒業旅行が一番の思い出。春からは働く」という。2人とも「通って良かった」と言葉をそろえた。

高等部を卒業した後に、もう少し学ばせたい。保護者の思いから開設されたカレッジは今春も新入生を迎える。新たな「可能性の芽」たちだ。彼らが顔を輝かせる日が、今年も近づいている。

年間行事(予定)	
3月	卒業式
2月	テーマ研究発表会
1月	成人式参加
12月	学習発表会
10月	一泊旅行、卒業旅行
8月	サマープログラム
7月	学習発表会
4月	入学式

学園長インタビュー

特別支援学校高等部を卒業した若者たちの「学びの場」は想定通りの教育効果を発揮しているのか、KINGOカレッジの久保田健学園長に聞いた。

―学園長に就任した経緯を教えてください。

くぼ たけし 久保田 健さん
KINGOカレッジ学園長



学生とても伸びる 集団での活動重視

―実際に教えてみて、教育効果はどうか？

「学生はとても伸びると感じている。こうした学びの場は、あつてしかるべきだ。多くの学生たちは2年

―カリキュラムは多彩なようだ。

「例えば『テーマ研究』は大学で言えば『卒論』のようなもので、自分が興味のあること、例えば「カレーのおいしい店」「仮面ライダー」など何でも調べる。研究発表会は土曜に開くので保護者も参加できる」

―カレッジは新潟市の中心部に位置している。

「地の利を生かして、いろいろな経験ができる。例えば、公共交通機関の乗り方など、街の中で対応できることが増えると、自信につながってくる」

―今後の方針は？

「教育期間が2年に限られていることが最大の悩みで、少しでもカバートくって開いているのが『同窓会』だ。卒業生に学校に来てもらい、みんなで話し合う。オンライン参加もできる。集団での場を卒業後も提供できたら、と思う」

「茨城県出身の私は新潟大学を出た後、特別支援教育に携わりたくて、新潟県の教員になった。南魚沼市の支援学校に勤めていた時に『KINGOカレッジ』開設の話に魅力を感じ、挑戦したいと思って教職を辞した」

豪雪地の高齢者・障害者

安心生活の一助に

雪国応援「あったか募金」

受け付け中

新潟県共同募金会は、豪雪地に住む高齢者や障害者の皆さんから、冬季を安心して過ごしてもらうための雪国応援「あったか雪募金」を実施しています。

寄せられた募金は、県共募から市町村共同募金委員会で除雪ボランティア活動などに助成するなど、豪雪地に暮らす高齢者や障害者などの暮らしを守るお手伝いをします。

Jリーグ 瀬口選手も 浄財を寄付

「あったか雪募金」にサッカーJ1、アルビレックス新潟のGK瀬口拓弥選手から2万1千円余りの寄付が

寄せられました。

瀬口選手は「昨年末から今年にかけて大雪に対する支援をしたい」と思い、投稿サイト「note」に有料公開した自身の記事が閲覧されて得られた収入の全額を寄付しました。

また、アルビレックス新



ISG Deni
瀬口 拓弥選手
©ALBIREX NIIGATA

〔瀬口拓弥選手メッセージ〕

昨年、新潟県内が見舞われた大雪による渋滞や停電などにより、私たちの生活は、大きな影響を受けました。新潟の生活においては、雪と向き合っていくことが大切で、最も大変なことだと改めて感じられています。

このたび「あったか雪募

金」としても「新潟での生活者として、新潟で活動するクラブとして、大雪と向き合っている県民の皆様のお力に少しでもなっていて、さらに募金についても知ってもらえたら」と、瀬口選手の取り組みをバックアップしています。

県共同募金会では3月31日までの間「あったか雪募金」のほか「にいがた・新テマ型募金」も実施しています。

詳しくは県共同募金会のホームページをご覧ください。皆様の温かいご支援をよろしく願います。

金」への支援をさせていたいただいたのは、困ったときこそ仲間同士で手を取り合い、助け合うことが大切だと再認識したからです。今回の行動を通じて、少しでも支援の輪が広がること新潟で生活する皆さんの安心・安全につながることを願っています。

(原文のまま)

福祉活動応援の助成に ありがとうメッセージ

「令和4年度赤い羽根ポスト・コロナ（新型感染症）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン」で助成を受けた団体からのありがとうメッセージです。（事業実施期間：令和4年4月1日～9月30日）

〔フードバンク事業〕

胎内市フードバンク協議会
新型コロナウイルス感染症が長期化し、物価が高騰している中、勤務時間の短



縮や欠勤、失業などで収入が減り生活が困窮している世帯が増えています。特に子どもがいる世帯については、夏休み中は学校給食がお休みになり普段以上に厳しい生活が予測され、今まで以上に食糧や日用品を備え提供しました。写真。〓

また、新型コロナウイルスの罹患者や濃厚接触者の世帯で近隣に身寄りのない世帯には緊急に支援しました。

本事業をご利用したご家族からは「助かっています」「子どもにおいしいものが食べさせられます」「食べ盛りの子どもがいるのでありがたいです」と多くの感謝の声が届いています。

皆さんのご厚意に感謝いたします。



赤い羽根

情報



赤い羽根

情報





社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、
動産総合保険、費用・利益保険)

① 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 施設の医療事故補償
 - 医務室の医療事故補償
 - 看護職の賠償責任補償
- オプション3 ● 施設の借用不動産賠償事故補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償
- NEW**
- オプション5 ● 施設の感染症対応費用補償
休業補償から各種対応費用までワイドな安心
 - ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
 - ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
 - ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

- ② 個人情報漏えい対応補償
- ③ 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- ① 入所型施設利用者の傷害事故補償
- ② 通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- ① 職員の労災上乗せ補償
 - オプション：使用者賠償責任補償
- ② 役職員の傷害事故補償
- ③ 役職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償



プラン4 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03(3349)5137
受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667
受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

令和4年度 新潟県社会福祉協議会 賛助会員 ご支援・ご協力ありがとうございました。

本会の活動の趣旨にご賛同いただき、多くの皆様から会費をお寄せいただきました。

本会が取り組んでおります地域福祉向上のための広報、啓発事業などさまざまな事業に活用させていただきます。今後とも、ご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【企業・団体等】(敬称略)	【企業・団体等】(敬称略)
株式会社新潟日報社	株式会社電通東日本新潟支社
株式会社新潟放送	ホリカフーズ株式会社
株式会社NST新潟総合テレビ	株式会社新潟博報堂
株式会社テレビ新潟放送網	株式会社アークベル
株式会社新潟テレビ21	第一建設工業株式会社
株式会社第四北越銀行	公益財団法人新潟県女性財団
株式会社大光銀行	社会福祉法人恩賜財団済生会支部新潟県済生会
新潟県信用農業協同組合連合会	新潟日報会
新潟県信用組合	一般社団法人新潟県健康管理協会
新潟信用金庫	一般社団法人生命保険協会 新潟県協会
三条信用金庫	高田西城病院
新潟県労働金庫	新潟県行政書士会
株式会社新潟日報メディアネット	新潟県火災共済協同組合
東北電力株式会社新潟支店	学校法人新潟総合学園
セコム上信越株式会社	学校法人新潟平成学院
新潟総合警備保障株式会社	学校法人新潟青陵学園
北陸ガス株式会社	学校法人敬和学園
亀田製菓株式会社	学校法人新潟科学技術学園
岩塚製菓株式会社	公立学校法人新潟県立看護大学
中越運送株式会社	株式会社新宣
株式会社コロナ	株式会社たかだ
株式会社本間組	株式会社新潟クボタ
株式会社植木組	旭ビル管理株式会社
新潟冷蔵株式会社	塩沢信用組合
株式会社福田組	学校法人国際総合学園
アクシアル リテイリング株式会社	株式会社ウオロク
株式会社ブルボン	上越ケーブルビジョン株式会社
株式会社BSNアイネット	新潟観光開発株式会社

※企業・団体の賛助会員のみ掲載。

令和5年度 賛助会員を募集しています

◇お問い合わせ・お申し込みは

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 総務管理課

〒950-8575 新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階

電話 025(281)5520 Fax 025(281)5528

ホームページ <https://www.fukushiniigata.or.jp>



知事への重点要望

- ①新潟ユニゾンプラザの適正管理
(新潟県社会福祉協議会)
- ②民生委員・児童委員活動費及び民生委員協議会活動負担金の増額
(新潟県民生委員児童委員協議会)
- ③物価上昇に対応するための適切な支援策
(新潟県老人福祉施設協議会)
- ④現行補助金額の堅持
(新潟県老人クラブ連合会)
- ⑤障害のある人のスポーツ活動を組織的・継続的に支援していくための体制強化
(新潟県身体障害者団体連合会)
- ⑥重度障がい者が日中も夜間も安心して過ごすことができる住まい等の確保策の拡充
(新潟県手をつなぐ育成会)
- ⑦精神障害者保健福祉手帳 2、3級所持者への重度心身医療費助成制度の対象拡充
(新潟県精神障害者家族会連合会)
- ⑧ひとり親家庭等就業・自立センター事業の相談体制の強化
(新潟県母子寡婦福祉連合会)
- ⑨地域生活定着支援センターの安定的な運営費確保
(新潟県社会福祉士会)
- ⑩介護職員のキャリアアップ支援と就労促進の取り組み
(新潟県介護福祉士会)
- ⑪介護支援専門員の就労促進の取り組み
(新潟県介護支援専門員協会)
- ⑫障害福祉事業所への委託業務量の増大
(新潟県社会就労センター連絡協議会)

「助けて」と自ら声をあげることは、そう簡単ではありません。逃げている、迷惑をかけたくない、情けない—などのさまざまな思いから、誰かの助けを受け入れることが

アなどの支援を受け入れる力のことを指しますが、この考え方は普段の暮らしの中で困難や課題を抱える人にも広く当てはまります。

「頼り上手」のすすめ

東日本大震災をきっかけに「受援力」という言葉が知られるようになりました。平たく言うと、困った時に助けを求めることができる力を意味します。

災害現場では、被災地が環境や知恵も含めてボランティア

2023
ずくむ
Vol.64

手助け 柔軟に使って



(実央)

誰かの手を借りることは「弱さ」なのでしょうか。自分の周りのヒトやモノ（サービス）を柔軟に取り入れ、それを使うことは、むしろ賢い選択であり、これから生き抜いていく「強さ」であるように思います。

難しい場合があります。一人で抱え込んだ苦労は、気づかないうちに心身を消耗し、いつしか限界を迎えます。また、助けを求められずに何とか取り繕おうとしている姿は、周囲から見ると気の毒に映ったり、余計に心配をかけたりしがちです。

福祉の相談を聞いていると、その辺りがうまくいかずに、結果的に本人やその家族が大変な思いをしているとみられる事例が少なくありません。

福祉へ温かい配慮を

知事に12団体が共同要望

新潟県社会福祉協議会など、県内12の福祉団体の代表が12月27日、県庁に花角英世知事を訪ね、令和5年度県予算案のうちの社会福祉政策に関し、重点要望と一般要望をまとめた「要望書」を提出しました。

(重点要望項目は8ページに掲載)



福祉12団体による花角知事への新年度予算共同要望

知事 必要な要望と受け止め 意見交換し知恵を出す

各団体からの重点要望12項目は知事に対しての要望。一般要望10項目は福祉保健部長に対して要望しました。

共同要望書はこれらをまとめてつづつており、県社協の竹内希六会長が12団体



花角知事(右)に要望書を手渡した竹内県社協会長

を代表して花角知事に手渡しました。

竹内会長は「福祉団体は極めて厳しい状況にあり、知事の温かい配慮をお願いしたい」と述べました。

この後、各団体の代表がそれぞれ「重度障がい者が安心して過ごせる住まい等の確保策拡充」「ひとり親家庭等就業・自立センター事業の相談体制の強化」「介護職員のキャリアアップ支援と就労促進の取り組み」など、要望事項に関する実情を知事に訴えました。

各団体の要望を聞き終えた知事は「各団体の活動に必要な要望だと受け止めて



松本県福祉保健部長ら県幹部へ予算要望する福祉団体の代表ら

令和5年度予算で県知事に共同要望した福祉12団体は次の通り。

- ▽県社会福祉協議会▽県民生委員児童委員協議会
- ▽県老人福祉施設協議会
- ▽県老人クラブ連合会
- ▽県身体障害者団体連合会
- ▽県手をつなぐ育成会
- ▽県精神障害者家族会連合会
- ▽県母子寡婦福祉連合会
- ▽県社会福祉士会▽県介護福祉士会▽県介護専門員協会
- ▽県社会就労センター連絡協議会

いる。県予算にも限りがあるが、各部署で議論・意見交換して知恵を出したい」と応えました。

竹内県社協会長は「感謝申し上げる」と、要望実現に期待感を表しました。

知事への要望に先立ち、12団体は松本晴樹県福祉保健部長らに予算案編成に關しての一般要望書を提出しました。副部長や各課長らも同席する中、各代表らは団体の実情に沿った要望を訴えました。

苦悩の日々 詩にして朗読

「こわれ者の祭典」が20周年イベント 新潟



月乃光司代表（ステージ中央）の音頭で会場と一緒にコール。「病気だよ！」「全員集合～！！」



生きづらさを抱える人が「つながる先」を見つけやすいように設けられた各支援団体ブース

月乃光司さんら

深刻ながらユーモアも

会場は笑いと拍手、涙と共感

「病気だよ！」「全員集合～！！」。ステージの声に会場が一つになって唱和し。引きこもりや依存症など、さまざまな生きづらさを

を抱える人たちのパフォーマンスス集団「こわれ者の祭典」の20周年記念イベントが12月25日、新潟市中央区の市総合福祉会館で開かれました。

出演者たちはトークや歌で、生きづらくて苦悩した頃の心情をユーモアも交えて披露。会場の150人は拍手したり笑ったり、涙を

流したり。共感の思いも広がっていました。

20周年イベントは、新潟市で若者の自立を支援するNPO法人Colorful

map（カラフルマップ）＝籠島高志代表理事が主催しました。

パフォーマンス集団「こわれ者の祭典」の代表は作家で会社員の月乃光司さん

＝新潟市西区。自身がアルコール依存症などで苦悩した後に社会復帰した経験から、生きづらさを抱える人たちに前を向くきっかけを発信しようと「祭典」を開催。これまでに新潟のほか、東京など全国でも開いてきました。

ステージには月乃さんのほか、そううつ病や摂食障害、パニック障害、対人恐怖症などを経験した人たちが

登場。司会者との掛け合いで、それぞれに症状や、つらかった時期や苦悩などを、ユーモアをたっぷり交えて語りました。

後半のステージではパフォーマンスとして、ギター弾き語りや、かつての苦悩をつづった詩の朗読が披露されました。

月乃さんは大声で朗読しました。「4年間引きこもって」「3回精神病棟に入院した」「それでも生き残ってきた」「僕の人生を僕よりもうまく生きられる人はいない」。会場から拍手喝采と共感を集めていました。

イベントを終え、月乃さんは「いろんな人がつながりを持てるきっかけになるよう、来年も開催したい」と話しました。

今回は主催者側の発案で、生きづらさを抱える人たちが「つながる先」を見つけれられるよう、支援活動の10あまりの団体がブースを構え、訪問者とコンタクトしていました。

会場は笑いと拍手、涙と共感

No.59 福祉の現場

—福祉の現場で働く人たちに
思いを聞きました—



清野 正弘 さん
長岡市民生委員・児童委員
中之島地区 前会長

長岡市社会福祉協議会
中之島地区社会福祉協議会顧問
=現在=

自宅 〒954-0213
長岡市下沼新田甲131

今回の「福祉の現場」は、現場を卒業したばかりの人の回顧談をお届けしたい。

11月10日に

長岡市で開かれた第72回県

民福祉大会。県内15人の民生委員・児童委員とともに県知事表彰を受け、受賞者全員を代表し謝辞を述べた。

「地域の皆様に助けられ民生委員・児童委員を25年間、務めました」。自宅に飾られた数々の表彰状に真新しい1枚が加わった。

傘寿を過ぎ、県民福祉大会の直後には任期満了によ



長岡市の民生委員・児童委員の会合で退任あいさつをする清野正弘さん＝令和4年11月

地域を思い民生委員25年

り、民生委員・児童委員を辞した。長らく、民生委員の中之島地区会長を務め

た。「健康だったから地域へ貢献できた」

現役時代は本社東京で、県央地区に工場のある編み機製造販売会社に勤務。女性用靴下編み機の設計と開発に携わり、編み機の納品や展示会で欧州やアジア各国に出向くなど、責任ある立場で多忙だった。

「そのころの民生委員が体調を崩した、それで、私に後任を引き受けてほしい」と、区長に頼まれ悩んだ。本社から工場を訪れた社長に相談すると「それも大切

地元を回れば、さまざまな実情に目が行き「何とかしよう」と体が動く。

その一つが、障害者家族会が福祉事業所を運営する旧保育園の老朽園舎の改装だった。地元での声を受け、県市からの補助金で修復・増改築する中心的役割を担った。さらに、運営を担う組織としてNPO法人が設立され、その理事長に推されて就いた。平成21年4

月には新しい施設で障害者事業所がスタートした。ほかに、地域の人にいる

だ」と背中を押された。

民生委員・児童委員を務めながら、定年後も職場には参与として残った。その後の約20年間は民生委員一筋で地域を大事にした。民生委員の職務は「地域を回り、お年寄りに声を掛け、困ったことがないかなど、生活状況の把握に努めること」が大切だった。

い出は尽きない。

「大勢の人と交流もできて良かった。地域のお年寄りに『安心して暮らせるのはお前さんのおかげだ』と言われ、うれしかった」
現在は「ふるさとの歴史を伝える会」会長としての活動などにいそしむ。公職を退いても「地域への思い」は退かないようだ。

職員がお願いや苦情を聞いてくれない

職員の言葉遣いや言い方がキツく嫌な思いをしている

施設内でケガをしたが職員の説明や対応に納得できない

福祉サービスについて、事業者にも相談しても解決しない、また、話しにくい場合は

新潟県福祉サービス運営適正化委員会

〒950-8575 新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階

TEL.025-281-5609

相談無料

秘密厳守

FAX.025-281-5610

メールアドレス kujou@fukushiniigata.or.jp



新潟ユニゾンプラザ2階の「図書情報ルーム」(通称・ユニゾンの図書館)お薦めする「今月の本」。

認知症知る入門書

「相手の気持ちになつて考えて」―。よくいわれる言葉だ。

しかし、これこそ、増加傾向にある認知症の人に接する際の要諦だと、理学療法士で熊本県の認知症予防プログラム開発者、川端智氏は「マンガでわかる！認知症の人が見えている世界」で力説する。

2021年9月に出版。早くも認知症関連の入門の良書と評されるほど、売れ



ているようだ。

第1章は「何度も同じことを聞く」「帰り道がわからない」など、13症状について認知症の人の立場から解説。第2章は、周囲を戸惑わせたり驚かせたりする認知症の人の13の言動や行動を例に、心の中を推理するコツを紹介する。

いずれもまずマンガから始まり、続けて文章でもきちんと解説するなど、構成は丁寧だ。

言い方探すヒントに

口は災いの元―などの戒めは知っている、でも、気が緩んだりしたときなど、口から出た一言を悔いた経験は誰しもあるのでは(こうした失敗、小生あるある。枚挙にいとまなし)。そこで「よけいなひと言を好かれるセリフに変える」の副題が付いた「言いかえ図鑑」(大野萌子著)が気になる。

職場や地域などのコミュニケーションで欠かせない言葉のやり取り。何気ない

一言で好かれたり、敬遠されたりするというのは確かにあるかもしれない。そんな「マイナス」言葉を「プラス」に言い換えられたらどれほどいいか。

本書は「よけいなひと言」を「好かれるセリフ」に言いかえる141例を収録。



「お願いごと」「頼みごと」「断り方」「注意・叱り方」「謝罪の仕方」など15のシーン別に紹介する。

本書の言い換え例にうなづくかどうか、人によって好みによって、異なる。本書の言い換えにすべて得心がゆくことはないだろう。だとしても、自分なりの言い換えを探すヒントにしてもいいかも。

福祉の店 パレット情報

パレット新潟店営業日

2023年 2月							2023年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28					26	27	28	29	30	31	

営業時間 11:30~16:30 □…は休業日

編集後記

冬將軍は年末、県内に大雪を降らせ、その後も厳しい冷え込みをもたらすなどした。退散はまだだろうか。40年ほど前、赴任先の十日町で出会った冬將軍は容赦なかった。雪は片時も何日も、休まず降り続いた。市民は夜中まで家の雪掘りに追われ、幹線道路もまひした。市は新聞チラシで「戦後最大の豪雪 力を合わせ乗り切ろう」と呼び掛けた。56豪雪と名付けられ、写真集「雪との闘い」が出版された。豪雪を乗り越えようと「克雪」「利雪」「遊雪」などの言葉が流行った。

以前も今も、雪処理は機械除雪が担う部分が大きいとしても、玄関先など、人手も欠かせない。他県での豪雪による車の立ち往生に出勤した自衛隊も人海戦術だった。となる、高齢者や障害者の世帯は大変だ。弱者が困らないような雪国の仕組み作りは進んだのか。筆者が知らないだけなのかもしれない。(佐)

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所/社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人/関原 貢
定 価/5円 (会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
令和5年2月1日発行 (毎月1日発行)
印刷/島津印刷株式会社